

三田市実践に学ぶ 部員の感想

集団学習の在り方について、深く考えさせられた。今回はグループでの話し合いを経ての集団での話し合いであった。

この集団学習で、子どもたちにどのようなことを気づかせたいのか。子どもたちはどのようなことを振り返り、次の活動にどのように生かそうとするのか…。それを左右する大切な時間であったと思う。今回は「すっきりしている」という子どもたちの発言からスタートしたが、「もやもやしている」という子どもたちの発言からだったら、どのような授業になるのかと興味をもった。例えば、「先輩たちの築いてきた“きらきらタイム”を残したい。地道に地道に…」という4班Hさんの発言から、「どこの学校もやっていないイベントをしよう」と考える子どもたちや方法論だけでグループの話し合いが盛り上がっていた子どもたちに「伝統を残す」とはどのようなことなのかと深く考えるきっかけが生まれるかもしれない。第一発言者の大切さも改めて感じた。

(堀川小 深川 美佳子)

宿泊学習で日があいたにもかかわらず、子どもたちの意識が継続していたのは、一人一人が「願い」をしっかりとって活動していたからではないでしょうか。流れを思い起こす手立てとして、今までの話し合いや活動の様子が掲示してあったのもよかった。

一人一人が育っているので、4人グループでの話し合いがとても活発に行われていた。そこで出た意見が、また全体での話し合いに生かされていたと思う。そのためには話し合いの視点となる先生の言葉がけが明確だった。

子ども一人一人の実態をしっかりと把握しておられたことが授業のいろいろなところで生きていたと思う。

(古里小 石崎 瑞恵)

小グループでの話し合いの持ち方が非常に参考になりました。本時は自分がこれからどんな活動をするかの見通しをもつことであったが、その話し合いが非常に深まりのあるものとなっていたように感じました。普段からグループでの話し合いがよく行われているように感じましたが、自分が見ていたグループは、その話し合いの仕方がお互いに認め合う雰囲気であり、よりよい活動にしていきたいという思いがよく伝わってきました。

板書に類型化していったキーワードも、これからの活動目標や内容につながるものであり、子どもたちの今後の学習課題につながるヒントや支援となっていたように感じます。1時間を通して子どもたちの課題もより明確なものになる話し合いであり、単元を通して非常に効果的な1時間だったのではないかと思います。

長い単元の中から見ると、1時間だけの参観でしたが、話し合いの持ち方や学習形態の工夫など、授業の随所から学ばせていただきました。今後の自分の総合でも学ばせて頂いた点を生かしていければと思います。

(古里小 桐木 透)

本時の学習課題「光陽にかかわってきた人たちの願いを受けついで、自分にできることを考えよう」の『願い』について考えさせられました。インタビューや調査活動が充実していて、子どもたちは、かかわってきた人たちの『願い』をよく受け止めていました。そして、本時では、自分の光

陽に対する『願い』を明らかにして『願い』から活動につなぐところをどのように支援し、高めていけるのかを研修させていただきました。

子どもたちが、ぼくたちが「願い」とする『願い』とは…？光陽小学校や校区がどうあってほしいかということと、自分がそのためにどうしたいか、自分にできる活動が何かすべてイコールにならない難しさを子どもたち自身が感じていることが伝わってきました。先生の板書（「願い」「すること」「方法」）が支援の一つだと思いました。願いがはっきりしていて、することが生まれ、その方法を考え工夫していくという流れが示され、子どもたちは、今の自分がどの段階にあるのかを確認していたと思います。しかし、願いがはっきりしていなくてもしたいことがあったり、願いはあるがそこからすること、できることにうまくつながらないけれど〇〇がしてみたい！と思ったりする発想はダメなのか？と感じました。また、願いとすること、方法をつなぐための支援の一つがグループでの話し合いだったと思うのですが、方法論が多く出てそれはそれで子どもたちの発想の豊かさに驚きました。友達と話し合うことで、自分がしようとしていることや願いがはっきりしてきたり、方法の見直しで改めて自分がしたいことはどういうことなのかをはっきりさせていたりしていたように思います。

すっきり筋道を立てて思考が進まない、進みにくい、そんな子どもたちもがんばって考えている姿を応援したいと思いました。

（古里小 奥井 喜子）

三日市先生の実践は、これまで2回見させてもらいましたが、いつもテーマをよく考えてあると感心します。

今回のテーマ「光陽誕生10年に考える～今、願いを受け継いで…～」は、5年生の子どもたちが、創校10周年という節目に、創校当時の人々の願いや光陽小で育ってきた自分のことを考え、これからの学校生活を創り上げていくことにたいへん効果的な取り組みだと思います。子どもたちは、単元終了後も卒業までずっと学んだことを意識していくと思うので、学年づくり・校風づくりにもとても意義があると思います。

私たちは、総合的な学習の時間にどんなテーマで取り組もうかと悩みます。そして、タイムリーで自然体で、どの子も意欲的に取り組み、それが教師の願うことに結びついていくものでありたいと思います。だからこそ、念入りの教材研究と構想が重要になります。三日市先生は、テーマだけでなく、地域とのつながりや人々の願いをも取り込んだ活動にしようと工夫しておられ「教師も共に学ぼうとしている」ことを感じます。そして、「教師が本気になってこそ子どもも本気になる」ということを三日市実践からいつも感じます。自分なりの感想を述べましたが、ありがとうございました。

（倉垣小 林 美智子）

・取り組みが様々に分かれているときは、1人1人の思いの強さが活動を支えるエネルギーとなる。みんなが真剣に考え、行動しようとしていた。この子どもの姿は、教師の単元構想がしっかりとしており、実態をとらえて体験学習を組み込んでおられた成果だと思います。

・小グループでの話し合いがとても活発に行われていた。国語等の教科でも日々鍛えておられるからだと感じました。積み重ねが大切だと学びました。

・話し合いを焦点化させる難しさ。小グループでの話し合いの何を全体で取り上げていくかを見極め、意図的指名などでかかわらせていくことが大事。キーワードとなる伝統をどう受け止めている子どもたちなのか①受け継ぎ、引き継いでいきたい伝統 ②新しいオリジナルのものを作り出していきたいのか、このあたりを板書で整理して、子どもたちの願いと活動を位置付けていく教師の支援も必要ではなかったかと事後に考えました。

(中央小 深井 美和)

「子ども同士が繋がり合う授業にするための手立て」について

総合的な学習の時間を充実させるために、協同的な学習の必要性が訴えられている。参観授業では、光陽小学校の設立10年を迎え、どのような願いをどのように受け継いでいくのか、子どもたちがグループ学習を通じて母校への伝統を受け継ごうとする思いを高める場面を見せていただいた。本時の学習では、グループの子ども同士でどのような願いをもち、何をしようとしているのか互いに質問をしたり、集会の実施やあいさつ運動など他の子どもの考えを聞いたりしていた。

この授業から、話し合いを深めるための効果的なグループ学習するには、学習形態を工夫し、適切な課題を提示する必要性を学ぶことができた。2班のA児は、話し合いの中で母校の10年目に向けた活動を具体的に想起し、教師がどのような考えか確認すると「いや、そうじゃなくて」ときちんと説明できるくらい、しっかりと考えをもっていた。A児が思いを高める過程で、同じグループの友達から「願いを達成するために何をするの」と質問をされたり、活動の具体的な内容を聞いてもらったりして、考えをよりよいものにしようとする話し合いが展開されていた。このような話し合いになったのは、前時までのインタビューや学校についての調査活動などが子どもの心に残る活動になっており、三日市先生から出された「願いを実現するための方法を考えよう」という課題提示が、子どもにとって真剣に考えたくなるものだったからではないだろうか。明確な学習課題が、工夫された学習活動をもとに提示され、単元の流れや子どもの意識の中で適切に位置づけられたものだったと感じた。

私の学年では大豆をテーマに総合が展開されている。今回の学びを生かし、子どもの追究が深まっていくよう、十分な体験活動を取り入れ、それをもとに大豆をもっと知りたい、調べたい、あるいは友達の考えを聞いてみたいと思える課題の提示および学習活動の工夫を行いたい。

(東部小 舟川 宗吾)